

西麻植小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

豊かな心と確かな学力をはぐくむ学習活動の創造

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	低学年部会：多田美穂（教頭）・長谷美穂（研修主任・1年担任）・瀧山千春（2年担任）・江本奈央（3年担任）・後藤和世（教務主任・特別支援担任）・北村恵子（養護教諭） 高学年部会：濱田真司（校長）・平野貴史（4年担任）・楠瀬 涼（5年担任）・森永達也（6年担任）・堀井朱乃（特別支援担任）・近久美穂（特別支援コーディネーター）
近久美穂	

校長

濱田 真司



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に真面目に取り組み、漢字の読み書きや計算など、基礎基本の内容のおおよそを身につけている。 ●個別の支援が必要な児童や、学習直後はできていてもまとめのテストなど広範囲にわたる内容になると難しい児童もいる。	・漢字・言葉・計算など基礎的・基本的な知識を身につけている。	・漢字や計算の課題を毎日の宿題にし、朝の活動でドリル学習を繰り返し行う。 ・学習のめあてを明示し見通しをもたせ、ふり返りを大切にすることにより学びの意欲を高める。 ・ICTを効果的に活用し、視覚化する。 ・算数はT・Tで、個別の支援の充実を図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分が伝えたいことを話したり書いたりしようとしている意欲は育ってきている。 ●既習の知識や生活体験を活用した力には、個人差が大きく、二極化がみられる。相手によくわかるように話したり、説明したりする力、構成や段落を考えて書く力にも個人差が見られる。	・読み取ったことや聞いたこと、考えたことを、根拠や理由を明らかにして話したり、友達の意見と比較したりして表現することができる。 ・調べたことや考えたことを文章の構成を考えて書くことができる。	・全ての教科において、話し合いの手引きやホワイトボードを活用した授業を計画的に位置づける。 ・目的意識や相手意識をもたせて、話したり書いたりする場を作る。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題は真面目に取り組むことができる。自主学習ノートを宿題として出した場合、自分でめあてを考えて取り組むことができる児童もいる。 ●「もっと知りたい、調べたい」という意欲や自分に合っためあてをもって、自主学習に進んで取り組む児童が少ない。また、意欲はあるが、具体的に取り組む手立てが分からない児童がいる。	・「もっと知りたい、調べたい」という目的意識をもって学習に主体的に取り組むことができる。	・教材研究を行い、児童が主体的に学ぶことができる授業を行う。 ・自主学習ノートのよい例を児童と保護者に示していくことで、家庭学習の質を高める。 ・取り組む手立てに焦点をあてた掲示や、紹介の仕方を工夫する。 ・市図書館と連携して、読書の充実を図る。			

令和2年度 学力向上ロードマップ

全国調査 4/16

ステップアップテスト は中止

